

平成31年
安松幼稚園
創立70周年記念コンサート
～伝えよう 誇り高き日本の文化～

2019年 **2月9日(土)** PM 2:00 開演

 **泉の森ホール** 小ホール

主 催

安松幼稚園

後 援

泉佐野市／泉佐野市教育委員会

第 1 部

～オープニング～

四季のメドレー

・ 一月一日 ・ 春よ来い ・ うれしいひなまつり ・ しゃぼん玉 ・ 背くらべ
・ ほたる ・ 夏は来ぬ ・ 村まつり ・ 夕やけ小やけ ・ 母さんの歌 ・ お正月

出 演 者 全 員

花の街

江 間 章 子：作 詞
團 伊 玖 磨：作 曲

これが音楽

永 六 輔：作 詞
中 村 八 大：作 曲

中島みゆきメドレー

麦の唄 ～ 糸 ～ 時代

中島みゆき：作詞・作曲
山 室 紘 一：編曲

安松幼稚園

お母さんコーラス

指揮 花 篤 孝 子
伴奏 西 浦 明 子

しぐれに寄する抒情

佐 藤 春 夫：作 詞
大 中 恩：作 曲

くちなし

高野喜久雄：作 詞
高 田 三 郎：作 曲

バスバトン 山 川 大 樹
伴奏 西 秦 郁 子

は っ か 草

野 呂 昶：作 詞
千 原 英 喜：作 曲

伝えよう誇り高き日本の文化

三つのわらべうた

ずいずいずっころばし ～ 通りゃんせ ～ あんたがたどこさ

涙 そう そう

森 山 良 子：作 詞
B E G I N：作 曲

Y E L L

水 野 良 樹：作詞・作曲

ど ん な と き も

榎 原 敬 之：作詞・作曲

安松幼稚園 年長児

春なのに～「想歌」より

菅 野 祥 子：作詞・作曲

さくらメドレー

・ SAKURA

水 野 良 樹：作詞・作曲

・ さくら

森山直太朗・御徒町 飢：作 詞
森山直太朗：作 曲

第 2 部

おお春よ

ティリンデッリ：作 曲

約 束

藤 田 敏 雄：作 詞
前 田 憲 男：作 曲

ソプラノ 花 篤 孝 子

オペラ「シンデレラ(チェネントラ)」より
“天の神秘の奥深くから”

ロッシーニ：作 曲

バスバトン 山 川 大 樹

伴奏 西 秦 郁 子

園児たちが歌う日本のこころ

桃 組 ・ 鞠と殿さま

西 條 八 十：作 詞
中 山 晋 平：作 曲

・ いつも何度でも

覚 和 歌子：作 詞
木 村 弓：作 曲

桜 組 ・ 一寸法師

巖 谷 小 波：作 詞
田 村 虎 造：作 曲

安松幼稚園 年長児

・ やさしさに包まれたなら

荒 井 由 実：作詞・作曲

梅 組 ・ 肩たたき お母さん

西 條 八 十：作 詞
中 山 晋 平：作 曲

・ 誕生日

熊 木 杏 里：作詞・作曲

幻 想 即 興 曲

シ ョ パ ン：作 曲

乗 上 咲 子

アレグロ アパッショナート

サン＝サーンス：作 曲

日根野谷 麻衣

Variation for DEVIL
～Four Hands ver.～

清 塚 信 也：作 曲

日根野谷 麻衣
乗 上 咲 子

Time to Say Goodbye
(君と旅立とう)

F.ピーターソン
F.サルトーリ：作詞・作曲
L.クアラントット

ソプラノ 花 篤 孝 子
バスバトン 山 川 大 樹
安松幼稚園お母さんコーラス
伴奏 西 浦 明 子

～エンディング～

ふ る さ と

文部省唱歌

旅立ちの日に

小 嶋 登：作 詞
坂 本 浩 美：作 曲

出 演 者 全 員

今日の日はさようなら

金 子 詔 一：作詞・作曲

◆司会 田 口 浩 美



プロフィール



安松幼稚園

(年長児95名が出演します)

今年で創立70年となる安松幼稚園は、「日本の文化を次の世代に伝えていくことが、幼稚園の大きな責務の一つである」と、常々考えています。

音楽の分野については、唱歌・童謡を通じて、時代を超えて残すべき日本の文化を子供たちに伝えたいという想いをもっています。

その趣旨の基、お楽しみ音楽会を毎年1学期末に園内で開催して今年で41回、泉の森ホールでの新春コンサートは、2年ぶり 今回で11回目となります。

選曲の際には、唱歌・童謡に限らず

- 子ども達に よい曲（美しい旋律など）に触れさせたいという音楽の観点
- 格調高い綺麗な日本語で書かれた詩に触れさせたいという国語（日本語）の観点
- 唱歌・童謡を通じて、時代を超えて残すべき日本の文化を子供達に伝えたいという社会学的な観点

等々、多方面にわたって検討します。

園児たちに詩の意味を説明（お話・写真・実物に触れさせる等々の方法で）しますと、爛々と目を輝かせて興味を持ちます。また園児も保護者も、心から唱歌・童謡を楽しんでいます。

保護者の方からも、「私たち親はあまり唱歌を知らない世代なので、子供とお婆ちゃんお爺ちゃんとして話が弾み、一緒に歌っています。」「子供を間にして、3世代・4世代にわたって一緒に歌うことができます。」「

寝たきりで入院中のひいばあちゃんは、ひ孫に昔懐かしい歌を聴かせてもらって涙を流し、生きる力をもらったと大喜びです。」等々の話が、数多くあります。

さてこの 20 年ばかり、唱歌・童謡が日本の社会（とくに小・中学校の音楽の教科書）から姿を消しつつあることを嘆く記事が多く見られるようになりました。産経新聞に掲載された記事をまとめて出版された「教科書から消えた唱歌・童謡」もその一つであり、このコンサートの立ち上げ（第1回は平成16年1月12日：安松幼稚園企画：泉佐野市 産経ウェブ主催）のきっかけとなりました。

歌の指導が、「単なる歌うという技術の伝達」に終わるのではなく、今後とも、日本の文化を伝えていくという原点にも踏み込んでいきたいと考えています。

合唱の練習を通して

- ・みんなで心一つに協力すること（合唱は簇の集大成でもあります）
- ・物事を達成するには、頑張りや努力や我慢することが必要なこと
- ・歌い終わった後の充実感や達成感などの喜び

等々を子供達に経験させつつ、卒園までに約 160 曲歌います。

「表情のない音楽は、音楽ではない」との想いの下、ここ数年の歌唱指導において、表情・表現を多く取り入れています。

豊かな表情・表現により、脱力でき、伸びる声・優しい綺麗な声になります。

みんなが同じ表現（動作）をすることにより、声がそろって一つになり響きがよくなります。

本日は、みなさま どうぞお楽しみ下さい。

安松幼稚園お母さんコーラス

平成 18 年に発足し、最初は安松幼稚園の先生方の指導が始まったが、平成 21 年より、花篤孝子さんを先生に迎えることとなる。幼稚園に子供を登園させた後、週に 1 回の練習をしている。

発表としては、幼稚園における 1 学期末の園内楽しみ音楽会・2 学期末の文化発表会・3 学期のひな祭り・極楽寺における春のお彼岸コンサートなどに出演している。

全国的に PTA 活動が低迷しているにもかかわらず、現在部員（希望者）が 25 名と盛況を誇っている。今回の出演は、現役の部員 24 名と、OG 8 名の計 32 名である。



花 篤 孝 子 (ソプラノ)



大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同専攻科修了。関西二期会オペラスタジオ修了。校内オペラ「椿姫」「コジ・ファン・トゥッテ」に出演。第 2 回和歌山音楽コンクール大学生の部第 3 位。ミラノの「オペラ集中コース」に参加、ディプロマ取得。その後 2 度イタリアに渡り、M.L. チョーニ女史に師事。2006 年ウィーンにて日本歌曲を歌う。

2018 年イタリア・ボルツァーノのベルカント講習会に参加、ディプロマ取得。現在、りんくうセントラルスポーツカルチャーセンター講師。女声コーラス“あじさい”、“花みずき”、安松幼稚園お母さんコーラス、“バーバの歌声サロン”他を指導。貝塚市クラシック音楽家協会会員。

山 川 大 樹 (バスバリトン)



大阪音楽大学音楽専攻科声楽専攻修了。現在までに「フィガロの結婚」バルトロ、「ドン・ジョヴァンニ」レポレッロ、「魔笛」ザラストロ、「愛の妙薬」ドルカマール等の役で多数のオペラに出演。いずれも好評を博す。またベートーベン「第九交響曲」のソリストやヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」、フォーレ「レクイエム」等の宗教曲のソリストの分野でも活躍している。近年ではオペラの楽しさを伝える講演活動や「やまかわひろき」名義でオペラの舞台演出を手掛ける等、活動の輪をますます広げている。関西歌劇団正団員。堺シティオペラ運営委員。貝塚市クラシック音楽家協会会員。NHK文化センター西宮教室講師。女声コーラス“マーガレット”指導者。

日根野谷 麻衣 (ピアノ)



大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て神戸女学院大学音楽学部音楽科卒業。第 10 回ベガ新人演奏会等多数の演奏会に出演。第 1 回大阪府立青少年会館ジュニアクラシック音楽コンクール第 3 位（1 位 2 位なし）。第 13 回泉の森フレッシュコンサートにおいて最優秀に選ばれ、翌年のガラコンサートに出演。ウィーンにてリスト音楽院 K. ドラーフィー教授のマスタークラスを受講。ディプロマ取得。これまでに祐成佳代、田中真理、岩田朋子、奥村智美の各氏に師事。泉佐野市音楽家クラブ会員。現在安松幼稚園ピアノ教室講師。後進の指導、演奏活動を行っている。

乗 上 咲 子 (ピアノ)



大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て同志社女子大学学芸学部音楽学科卒業。大学卒業時、第 20 回東大阪新人演奏会出演。第 2 回かやぶき音楽堂デュオコンクール C 部門優勝。第 7 回大阪ピアノコンクールにてデュオ部門審査員特別賞受賞、翌年の入賞者ガラ・コンサート出演。第 8 回かやぶき音楽堂デュオコンクール A 部門第 3 位、同日に行われた入賞者演奏会に出演。これまでに加藤洋子、田中真理、辻本澄子の各氏に師事。現在安松幼稚園ピアノ教室、藤本音楽教室講師。後進の指導、演奏活動を行っている。

産経新聞や安松幼稚園をはじめとした運動の効果も少しはあり、この 5,6 年、唱歌・童謡が、小中学校の音楽の教科書にも、若干復活しつつあります。しかし現場では、その重要性が認識されるところまで至っていないようです。さらなる復活を期待しています。

安松幼稚園の大切にしていること

安松幼稚園の70年の歴史を振り返り またこれからのあるべき姿を想うとき
安松幼稚園の教育は

- 情緒教育そのものである
 - 子供達に、情熱をもって最後までやり抜く力（グリット力）を育む
- の2点に 集約されます

安松幼稚園の教育の根本

●安松幼稚園の教育は 情緒教育そのもの

—— 創造的な仕事の源となる美的感受性・美的情緒を育みたい ——

安松幼稚園は、園児一人一人に美的感受性・美的情緒を育みたいと思っています。すなわち安松幼稚園の教育は、情緒教育そのものなのです。

美的感受性・美的情緒とは

- ・ 野に咲く一輪のスマイルを見て美しいと感じる心
- ・ きれいな詩歌や歌声を聴けば、自然と涙がこぼれるような情感
- ・ 人と人との助け合いや触れ合いの話を聞き、感動する心
- ・ 自然、人の生き方、芸術、俳句や詩に、感動し心震わせ涙する心 などの心です。

そして実は、情緒教育の中で育まれた美的感受性・美的情緒こそ 創造的な仕事の源となるのです。

●安松幼稚園の教育は 子供達に、情熱をもって最後までやり抜く力(グリット力)を育てます

どのようにすれば、子供達にやり抜く力が備わるでしょうか？

それには、個々の子供を細かく観察し、その子どもに合った適切な負荷を与える。

そして先生の指導や大いなる励ましを受けながら、物事を成し遂げるには、

- ・ 努力すること
- ・ 我慢し辛抱すること
- ・ ちょっとした失敗 等の

経験が必要なることを学んでいきます。

そして困難や与えられた負荷を乗り越えた後の達成感や、質の高い喜びを味わわせたいと思っていますが、そのためには熱い思いをもった情熱的な先生が不可欠です。

これらの自分の心・体を通しての経験により、今後の人生において、困難にあってもくじけない勇気・気概・闘志など、情熱をもって最後までやり抜く力（グリット力）が養われていきます。それらは、一生の宝になります。

●今回のコンサートに当たり、上記「安松幼稚園の教育の根本」の大切さを強く感じました。

★唱歌の指導においては、子供達が、メロディーや詩歌に美しさ・情緒を感じなければ、感動ある歌声にはなりません。

★また練習において、よいものを目指してやり抜く力がなければ、完成に至りません。

まだまだ未熟なところは多く残りますが、今日のコンサートを開催するに当たり、安松幼稚園の子供達を誇りに思うと共に、ここまで仕上げた先生方や背後で支えて頂いた保護者の方、このコンサートに関わって頂いた全ての方に、感謝申し上げます。

